

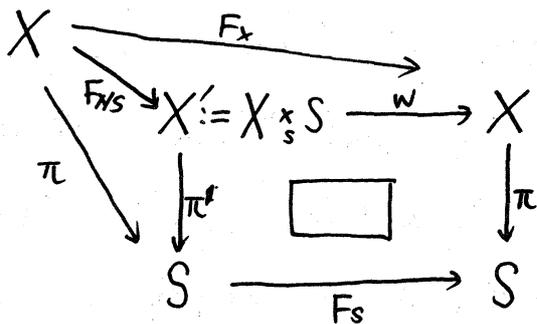
de Rham complex の分解について。  
(Deligne - Illusie の結果の紹介)

京大 理 横川 光司

(Koji YOKOKAWA)

§1. Deligne - Illusie の分解定理

$P$  を素数、 $S$  を標数  $P$  の scheme (すなわち  $P \in \mathcal{O}_S = 0$ ) とする。 $S$  の absolute Frobenius 射  $F_S: S \rightarrow S$  は topological には、identity map で、 $F_S^*(a) = a^P$  ( $\forall a \in \mathcal{O}_S$ ) により定義される射とする。 $X$  を  $S$ -scheme とすると次の可換図式が得られる。



図の  $F_{X/S}$  を  $X$  の  $S$  上の relative Frobenius 射といい、以後  $F$  により表す。 $X/S$  の

de Rham complex を  $\Omega_{X/S}$  とする。 $F_* \Omega_{X/S}$  は  $\mathcal{O}_{X'}$  module の complex となり、また、 $\bigoplus_{i \geq 0} \Omega_{X/S}^i$ ,  $\bigoplus_{i \geq 0} \mathcal{H}^i(F_* \Omega_{X/S})$  は、自然な graded  $\mathcal{O}_{X'}$  algebra の構造をもつ。Cartier operator の定義から始める。

定理 (Cartier)  $X$  を smooth  $S$ -scheme とする。この時 graded  $\mathcal{O}_X$  algebra の同型

$$C^{-1} : \bigoplus_{i \geq 0} \Omega_{X/S}^i \xrightarrow{\sim} \bigoplus_{i \geq 0} \mathcal{H}^i(F_* \Omega_{X/S})$$

で、 $C^{-1}(w^*(df)) = [f^{p-1}df]$  ( $\forall f \in \mathcal{O}_X$ ) を満たすものが、ただ一つ存在する。(証明は、[2] 又は、[3] を参照。)

Cartier operator は次の写像として定義されるが、

$$Z_i := \text{Ker}(F_* \Omega_{X/S}^i \xrightarrow{F_* d} F_* \Omega_{X/S}^{i+1}) \rightarrow \mathcal{H}^i(F_* \Omega_{X/S}) \xrightarrow{(C^{-1})^{-1}} \Omega_{X/S}^i$$

以下では、 $C^{-1}$  が使われない。

$\mathcal{O}_X$ -module の derived category を  $D(X)$  で表す。complex  $L^\bullet$  に対して  $\tau_{\leq m} L^\bullet$  を  $L^\bullet$  の subcomplex  $K^\bullet$  で、 $K^i = 0$  ( $i > m$ ) ;  $K^m = \text{Ker}(L^m \xrightarrow{d} L^{m+1})$  ;  $K^i = L^i$  ( $i < m$ ) を満たすものとし、 $L^\bullet[n]$  は complex  $K^\bullet$  で  $K^i = L^{i+n}$  ( $\forall i$ ) ,  $d_K = (-1)^n d_L$  を満たすものとする。また、 $\mathcal{O}_X$  module  $M$  は 0 番目が  $M$ 、他が 0 であるような complex とみられ、従って、 $M[n]$  は、 $-n$  番目が  $M$  で他が 0 であるような complex である。 $\tau_{\leq m} L^\bullet$  は  $\tau_{\leq m+1} L^\bullet$  のこととする。

$k$  を標数  $p > 0$  の完全体、 $S = \text{Spec } k$ 、 $\hat{S} = \text{Spec } W_2(k)$  とする。但し  $W_2(k)$  は長  $\pm 2$  の Witt vector の環である。 $S$  は同型  $W_2(k)/pW_2(k) \cong k$  により  $\hat{S}$  の closed subscheme とみ

られる。  $S$ -scheme  $X$  が flat  $\tilde{S}$ -scheme  $\tilde{X}$  の  $S$  への制限である時、  $X$  は  $\tilde{S}$  (又は  $W_2(k)$ ) への *liftable* といひ、  $\tilde{X}$  を  $X$  の ( $\tilde{S}$  への) *lifting* といふ。  $k$  の Frobenius 写像の  $W_2(k)$  への拡張  $\sigma: W_2(k) \rightarrow W_2(k)$ 、  $\sigma(a_0, a_1) = (a_0^p, a_1^p)$  は  $W_2(k)$  の自己同型である。

定理 (Deligne-Illusie) smooth  $S$ -scheme  $X$  の *lifting*  $\tilde{X}$  は、  $D(X')$  における同型

$$\varphi_{\tilde{X}}: \bigoplus_{i < p} \Omega_{X'/S}^i[-i] \xrightarrow{\sim} \tau_{< p} F_* \Omega_{X'/S}$$

で、  $\mathcal{H}^i(\varphi_{\tilde{X}}) = C^{-i}$  となるものを定める。

注意) 定理は、  $D(X')$  において  $\tau_{< p} F_* \Omega_{X'/S}$  が "分解" すること (すなわち、  $D(X')$  において微分が 0 であるような complex に同型であること) を意味している。  $S$  が標数  $p$  の scheme で、  $\tilde{S}$  が  $\mathbb{Z}/p^2$  上 flat な scheme で  $\tilde{S} \otimes \mathbb{Z}/p \cong S$  を満たすものとする。 Deligne-Illusie [1] では、  $X'$  が  $\tilde{S}$  への *liftable* であることと、  $\tau_{\leq 1} F_* \Omega_{X'/S}$  が分解することとが同値であることを、また、この時にも上の定理が成り立つことを示している。しかし、ここでは上の定理を証明するにとどめる。詳しくは [1] をみられたい。

定理の証明) 各  $i < p$  に対して、 $D(X')$  における写像、

$$\varphi_X^i : \Omega_{X'/S}^i[-i] \longrightarrow F_* \Omega_{X'/S}^i$$

を  $\mathcal{H}^i(\varphi_X^i) = C^{-1}$  となるように作ればよい。  $\varphi_X^0$  は、

$$\mathcal{O}_{X'} \xrightarrow{C^{-1}} \mathcal{H}^0 F_* \Omega_{X'/S}^0 \hookrightarrow F_* \Omega_{X'/S}^0$$

と定義すればよい。  $\varphi_X^i$  が構成できたとする。  $i < p$  に対し

て、 canonical map  $(\Omega_{X'/S}^i)^{\otimes i} \longrightarrow \Omega_{X'/S}^i$  は、自然な

section  $a(\omega_1 \wedge \dots \wedge \omega_i) = \frac{1}{i!} \sum_{\sigma \in \mathfrak{S}(i)} \text{sgn}(\sigma) \omega_{\sigma(1)}^{\otimes \dots \otimes \omega_{\sigma(i)}}$

をもつ。これを使って  $\varphi_X^i$  を次の図式が可換になるように定義する。

$$\begin{array}{ccc} \Omega_{X'/S}^i[-i] & \xrightarrow{\varphi_X^i} & F_* \Omega_{X'/S}^i \\ \downarrow a[-i] & \curvearrowright & \uparrow \text{product} \\ (\Omega_{X'/S}^i)^{\otimes i} & \xrightarrow{(\varphi_X^i)^{\otimes i}} & (F_* \Omega_{X'/S}^i)^{\otimes i} \end{array}$$

$C^{-1}$  が graded  $\mathcal{O}_{X'}$  algebra の同型であることから  $\mathcal{H}^i(\varphi_X^i) = C^{-1}$

よって  $\varphi_X^i$  を構成すればよい。  $X \rightarrow S$  の lifting  $\hat{X} \rightarrow \hat{S}$  と  $\hat{S}$  の automorphism  $\sigma$  との fiber product  $\hat{X} \times_{\hat{S}} \hat{S}^{\sigma}$  を  $\hat{X}'$  とする。  $\hat{X}' \times_{\hat{S}} \hat{S} \cong \hat{X}$  である。  $F : X \rightarrow X'$  が  $\hat{S}$  に liftable かどうかで分けて考える。

Case 1.)  $F$  が lifting  $\hat{F} : \hat{X} \rightarrow \hat{X}'$  を持つ時。

$$\begin{array}{ccc} \hat{F}^* : \Omega_{\hat{X}'/\hat{S}}^i & \longrightarrow & \hat{F}_* \Omega_{\hat{X}'/\hat{S}}^i \\ \downarrow & \curvearrowright & \downarrow \\ F^* = \hat{F}^* \otimes_{\mathbb{Z}/p} & \longrightarrow & F_* \Omega_{X'/S}^i \end{array}$$

$$\text{よって, } \hat{F}^*(\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}}) \subseteq P\hat{F}_*\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}}.$$

$W_2(k)$  module の同型  $k = W_2(k)/P W_2(k) \xrightarrow{\times P} P W_2(k)$  を  $P$  とかく。  $\hat{F}_*\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}}$  は  $W_2(k)$  上 flat であることに注意して、次の同型を得る。

$$F_*\Omega'_{X/S} \cong \hat{F}_*\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}} \otimes_{W_2(k)} k \xrightarrow[\text{id} \otimes P]{\sim} \hat{F}_*\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}} \otimes_{W_2(k)} P W_2(k) \cong P\hat{F}_*\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}}.$$

こゝもまた  $P$  とかく。同様に、次の同型も得られる。

$$P: F_*\mathcal{O}_X \longrightarrow P\hat{F}_*\mathcal{O}_{\hat{X}}.$$

写像  $P^{-1} \circ \hat{F}^*: \Omega'_{\hat{X}/\hat{S}} \longrightarrow F_*\Omega'_{X/S}$  は  $P\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}}$  を 0 にするから、  $f: \Omega'_{X/S} \longrightarrow F_*\Omega'_{X/S}$  を引き起こす。

$$\begin{array}{ccc} \Omega'_{X/S} & \xrightarrow{f} & F_*\Omega'_{X/S} \\ \uparrow & \curvearrowright & \downarrow P \\ \Omega'_{\hat{X}/\hat{S}} & \xrightarrow{\hat{F}^*} & P\hat{F}_*\Omega'_{\hat{X}/\hat{S}} \end{array}$$

$x \in \mathcal{O}_{\hat{X}}$  の local section とすると、  $x \otimes 1 \in \mathcal{O}_{\hat{X}} = \mathcal{O}_{\hat{X}} \otimes_{\mathcal{O}_{\hat{S}}} \mathcal{O}_{\hat{S}}$

$$\hat{F}^*(x \otimes 1) - \chi^P \in P\hat{F}_*\mathcal{O}_{\hat{X}} \quad (\because \text{mod } P = 0)$$

$$\mu(x) := P^{-1}(\hat{F}^*(x \otimes 1) - \chi^P) \in F_*\mathcal{O}_X$$

$$\therefore \hat{F}^*(x \otimes 1) = \chi^P + P \cdot \mu(x).$$

$\chi_0 := \chi \text{ mod } P \in \mathcal{O}_X$  とおく。

$$\begin{aligned} f(d(x \otimes 1)) &= P^{-1}d(\chi^P + P\mu(x)) \\ &= P^{-1}(P\chi^{P-1}d\chi + Pd\mu(x)) \\ &= \chi_0^{P-1}d\chi_0 + d\mu(x). \end{aligned}$$

よ、て  $d \circ f = 0$ 。このことは、 $f$  が complex の写像

$$f : \Omega'_{X/S}[-1] \longrightarrow F_* \Omega_{X/S}$$

を定めることを意味する。  $[f(d(\alpha \otimes 1))] = [\alpha_0^{p-1} d\alpha_0]$  in  $\mathcal{H}'(F_* \Omega_{X/S})$

であるから、  $\mathcal{H}'f = C^{-1}$  がわかる。  $f$  が  $D(X')$  において、

$\hat{F}$  のとり方によらずに決まることを示す。  $\tilde{F}_1, \tilde{F}_2$  を  $F$  の二つの lifting とし、それぞれに対して上のようにつめられる  $(f, \mu)$  を  $(f_1, \mu_1), (f_2, \mu_2)$  とする。

$$\tilde{F}_i^*(x \otimes 1) = x^p + P\mu_i(x) \quad (i=1, 2)$$

であるから、写像

$$\tilde{F}_2^* - \tilde{F}_1^* : \mathcal{O}_{X'} \longrightarrow P\tilde{F}_* \mathcal{O}_{X'} = PF_* \mathcal{O}_X$$

が決まる。これは、derivation である。実際、  $x, y \in \mathcal{O}_{X'}$  に対して、

$$\begin{aligned} \tilde{F}_i^*(xy \otimes 1) &= (x^p + P\mu_i(x))(y^p + P\mu_i(y)) \\ &= (xy)^p + P(x^p\mu_i(y) + y^p\mu_i(x)) \end{aligned}$$

$$\therefore (\tilde{F}_2^* - \tilde{F}_1^*)(xy \otimes 1) = x^p(\tilde{F}_2^* - \tilde{F}_1^*)(y \otimes 1) + y^p(\tilde{F}_2^* - \tilde{F}_1^*)(x \otimes 1).$$

( $\mathcal{O}_{X'} \ni x \otimes 1$  の  $\tilde{F}_* \mathcal{O}_{X'}$  への action は  $x^p$  倍であることに注意)

また、  $(\tilde{F}_2^* - \tilde{F}_1^*)(P\mathcal{O}_{X'}) = 0$ 。よ、て次の可換図式を得る。

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{O}_{X'} & \xrightarrow{\tilde{F}_2^* - \tilde{F}_1^*} & P\tilde{F}_* \mathcal{O}_{X'} = PF_* \mathcal{O}_X \\ \downarrow & \searrow \wr & \uparrow P \\ \mathcal{O}_{X'} & & \\ \downarrow d & \searrow \wr & \\ \Omega'_{X/S} & \xrightarrow{h_{12}} & F_* \mathcal{O}_X \end{array}$$

$h_{12}$  は  $\mathcal{O}_{X'}$ -linear である。

$$h_{12}(d(x_0 \otimes 1)) = \mu_2(x) - \mu_1(x)$$

とかける。よって

$$f_2 - f_1 = d \circ h_{12}.$$

これは  $h_{12}$  が、二つの (complex の) 写像  $f_1$  と  $f_2$  の間の、homotopy を与えることを意味する。従って  $f_1$  と  $f_2$  は  $D(X')$  において一致する。

さらに、 $i=1, 2, 3$  に対して、 $F$  の lifting  $\hat{F}_i$  が与えられた時、

$$h_{12} + h_{23} = h_{13}$$

となることに注意しておく。

Case 2.)  $F$  が lift できない場合。

$F$  は  $X$  の Zariski topology に関して local に liftable である。

(実際、 $U$  を  $X$  の affine open set とすると、 $X, X', \tilde{X}, \tilde{X}'$  は

homeo. であるから、それぞれ  $U, U', \hat{U}, \hat{U}'$  が決まる。 $\hat{U}'$  は  $\hat{S}$  上 smooth だから projection  $\hat{U} \times_{\hat{S}} \hat{U}' \rightarrow \hat{U}$  は smooth。  $U$  は  $\hat{U}$  の中で nilpotent ideal によって定義されるから formal smoothness より  $U$  が  $\hat{U} \times_{\hat{S}} \hat{U}'$  の  $F$  によって決まる  $\hat{U}$ -morphism は  $\hat{U}$  上へ拡張される。)

$\mathcal{U} = (U_i)_{i \in I}$  を  $X$  の affine open covering で、各  $i \in I$  について  $F$  の lifting  $\hat{F}_i: \hat{U}_i \rightarrow \hat{U}'_i$  が与えられているものとする。この時 case 1 の結果から、

$$\begin{aligned}
 f_i &= p^{-1} \tilde{F}_i^* : \Omega'_{X/S} | U_i \longrightarrow F_* \Omega'_{U_i/S} \\
 h_{ij} &: \Omega'_{X/S} | U_{ij} \longrightarrow F_* \mathcal{O}_{U_{ij}} \quad (U_{ij} = U_i \cap U_j) \\
 d \circ f_i &= 0 \quad , \quad f_j - f_i = d \circ h_{ij} \quad , \quad h_{ij} + h_{jk} = h_{ik} \\
 \uparrow & \quad \quad \quad \uparrow & \quad \quad \quad \uparrow \\
 \text{on } U_i & \quad \quad \quad \text{on } U_{ij} & \quad \quad \quad \text{on } U_{ijk} = U_i \cap U_j \cap U_k
 \end{aligned}$$

を得る。

$\check{C}(\mathcal{U}, \Omega'_{X/S})$  を  $\Omega'_{X/S}$  の covering  $\mathcal{U}$  に関する Čech double complex に associate する simple complex とする。すなわち

$$\begin{aligned}
 \Delta_n &:= \{0, \dots, n\} & s : \Delta_n &\longrightarrow I \quad (\mathcal{U} = (U_i)_{i \in I}) \\
 U_s &:= \bigcap_{i \in \Delta_n} U_{S(i)} & j_s : U_s &\hookrightarrow X \quad \text{とおく。}
 \end{aligned}$$

$$\check{C}(\mathcal{U}, \Omega'_{X/S})^n = \bigoplus_{a+b=n} \check{C}^b(\mathcal{U}, \Omega'^a_{X/S})$$

$$\text{こゝで } \check{C}^b(\mathcal{U}, \Omega'^a_{X/S}) = \prod_{\{s: \Delta_n \rightarrow I\}} j_{s*} \check{C}^b \Omega'^a_{X/S} \quad \text{と}$$

$$d = d_1 + d_2$$

$$d_1 : \check{C}^b(\mathcal{U}, \Omega'^a_{X/S}) \longrightarrow \check{C}^b(\mathcal{U}, \Omega'^{a+1}_{X/S})$$

$$d_2 = (-1)^a \sum (-1)^i \partial_i : \check{C}^b(\mathcal{U}, \Omega'^a_{X/S}) \longrightarrow \check{C}^{b+1}(\mathcal{U}, \Omega'^a_{X/S}).$$

自然な写像  $\Omega'^a_{X/S} \longrightarrow \check{C}^0(\mathcal{U}, \Omega'^a_{X/S})$  は quasi-isom.

$$\psi_{\mathcal{U}} : \Omega'_{X/S} \longrightarrow \check{C}(\mathcal{U}, \Omega'_{X/S})$$

を与える。F は homeo. であるから、 $F_*$  をつけて、

$$F_* \Omega'_{X/S} \longrightarrow F_* \check{C}(\mathcal{U}, \Omega'_{X/S})$$

も quasi-isomorphism にある。  $\Omega'_{X/S}[-1]$  から  $F_* \check{C}(\mathcal{U}, \Omega'_{X/S})$

への写像を構成する。

$$\varphi'_{(u, (\tilde{F}_i))} = (\varphi_1, \varphi_2) : \Omega'_{X/S} \longrightarrow F_* \check{C}(u, \Omega'_{X/S})^1$$

$$\parallel$$

$$F_* \check{C}'(u, \mathcal{O}_X) \oplus F_* \check{C}^0(u, \Omega'_{X/S})$$

を、

$$\varphi_1(\omega) = \prod_{i,j} h_{ij}(\omega|_{U_{ij}}) \in F_* \check{C}'(u, \mathcal{O}_X)$$

$$\varphi_2(\omega) = \prod_i f_i(\omega|_{U_i}) \in F_* \check{C}^0(u, \Omega'_{X/S}) \quad (\omega \in \Omega'_{X/S})$$

によって定義する。  $d \circ \varphi'_{(u, (\tilde{F}_i))}$  を決める三つの写像は、

$$d_2 \circ \varphi_1 = (h_{ij} + h_{jk} - h_{ik}) = 0$$

$$d_1 \circ \varphi_1 - d_2 \circ \varphi_2 = (d \circ h_{ij} - (f_j - f_i)) = 0$$

$$d_1 \circ \varphi_2 = (d \circ f_i) = 0$$

であるから、  $d \circ \varphi'_{(u, (\tilde{F}_i))} = 0$ 、従って、  $\varphi'_{(u, (\tilde{F}_i))}$  は complex  
 の写像  $\Omega'_{X/S}[-1] \longrightarrow F_* \check{C}(u, \Omega'_{X/S})$  を与える。  $\varphi'_X$  を  
 $\gamma_u^{-1} \circ \varphi'_{(u, (\tilde{F}_i))} \in D(X')$  によって決める。  $\varphi'_X$  が  $X$  の  
 covering  $u$  及び lifting  $(\tilde{F}_i)$  によるないことは容易にわかる。  
 また  $\gamma' \varphi'_X = C^{-1}$  であることは、local に確かめればよい  
 が、それは Case I から明らかである。

証明終。

注) case I のように、  $F$  が liftable である時は、  $\varphi'_X$  は  $D(X)$   
 でなくとも  $K(X')$  (object が complex、射が complex の写像の  
 homotopy class である category) の元として定義できる。しかも、  
 この時、  $\varphi'_X$  は  $i \geq p$  に対しても定義できる。実際、  $\varphi'_X$  は、

写像  $\Omega_{X'/S}^i \rightarrow Z_i$  を定める. ( $Z_i = \text{Ker}(F_*\Omega_{X'/S}^i \rightarrow F_*\Omega_{X'/S}^{i+1})$ )

$\varphi_X^i$  を  $\Omega_{X'/S}^i \rightarrow \wedge^i Z_i \rightarrow Z_i$  によって定義すればよい.

$F$  が liftable かどうかを決める obstruction は、

$H^1(X', \oplus_{X'/S} \oplus F_*\mathcal{O}_X)$  の元として定まる. (cf. [1] Remark 2.2 (iii))

系 1.  $\dim X \leq P$  で、 $X$  が  $W_2(k)$  の liftable とすると、

$F_*\Omega_{X'/S}$  は  $D(X')$  の中で微分が 0 であるような complex に同型である。

略証) (詳しくは [1] p.255 参照)  $\mathcal{H}^i(F_*\Omega_{X'/S})$  を  $\mathcal{H}^i$  とかく。

triangle  $\tau_{<P} F_*\Omega_{X'/S} \rightarrow F_*\Omega_{X'/S} \rightarrow \mathcal{H}^P[-P] \xrightarrow{e}$

をみると、仮定から  $\tau_{<P} F_*\Omega_{X'/S} \cong \bigoplus_{i=0}^{P-1} \mathcal{H}^i[-i]$ .  $e=0$  を示せばよい。

せばよい。

$$e: \mathcal{H}^P[-P] \rightarrow \left( \bigoplus_{i=0}^{P-1} \mathcal{H}^i[-i] \right)[1]$$

$$e = \sum_{i=0}^{P-1} e_i, \quad e_i \in \text{Hom}(\mathcal{H}^P[-P], \mathcal{H}^i[-i+1]) = H^{P-i+1}(X', \text{Hom}(\mathcal{H}^P, \mathcal{H}^i))$$

Grothendieck duality によつて  $\tau_{\geq 1} F_*\Omega_{X'/S}$  は  $\mathcal{H}^i[-i]$  の直和となる。従つて triangle

$$\tau_{\geq 1} \tau_{<P} F_*\Omega_{X'/S} \rightarrow \tau_{\geq 1} F_*\Omega_{X'/S} \rightarrow \mathcal{H}^P[-P] \xrightarrow{e'}$$

で  $e'=0$ .  $e' = \sum_{i=1}^{P-1} e_i$  だから、 $e_i=0$  ( $i=1, \dots, P-1$ ).

$e_0 \in H^{P+1}(X', \text{Hom}(\mathcal{H}^P, \mathcal{H}^0))$  で  $\dim X \leq P$  だから  $e_0=0$ .

証明終.

## §2. 応用.

$X, S$  は前節の通りとする。Hodge の spectral sequence

$$(*) \quad E_1^{i,j} = H^j(X, \Omega_{X/S}^i) \Rightarrow E_\infty^{i+j} = H^{i+j}(X, \Omega_{X/S})$$

$$H_{DR}^{i+j}(X/S)$$

について考える。標数 0 の時と違って、標数  $p > 0$  の時は、

(\*) は一般に  $E_1$  で退化しない。

系 2.  $\dim X \leq p$  で、 $X$  は  $k$  上 proper かつ  $W_2(k) \wedge$  liftable とする。この時、(\*) は  $E_1$  で退化する。

証明)  $\dim_k H^j(\Omega_{X/k}^i) < \infty$  であるから、

$$\sum_{i+j=n} \dim_k H^j(\Omega_{X/k}^i) = \dim_k H_{DR}^n(X/k)$$

を示せばよい。系 1 より  $D(X')$  において、

$$\bigoplus \Omega_{X'/S}^i[-i] \simeq F_* \Omega_{X'/S}$$

$$\therefore H^n(X', \bigoplus \Omega_{X'/S}^i[-i]) \simeq H^n(X', F_* \Omega_{X'/S})$$

$$\text{左辺} \simeq \bigoplus H^{n-i}(X', \Omega_{X'/S}^i) \simeq \bigoplus H^{n-i}(X, \Omega_{X'/S}^i) \otimes_k k$$

$F$  は finite だから、右辺  $\simeq H^n(X, \Omega_{X/S}) = H_{DR}^n(X/k)$ 。

証明終。

系 3.  $X$  は  $k$  上 proper かつ  $W_2(k) \wedge$  liftable とする。この時、 $i+j < p$  に対して、(\*) は  $E_1^{i,j} = E_\infty^{i,j}$  を満たす。

証明)  $m < p$  に対して.

$$H^n(X', \tau_{<p} F_* \Omega_{X'/k}) \cong H^n(X', F_* \Omega_{X'/k})$$

であることに注意すれば、系 2 と同様にして証明される。□

系 4.  $K$  を標数 0 の体とし、 $X$  は  $K$  上 smooth proper scheme とする。この時、Hodge spectral sequence は  $E_1$  で退化する。

証明)  $\mathbb{Z}$  上有限生成な  $K$  の部分環  $A$  で商体が  $K$  であるもの  $\gamma$ 、smooth proper morphism  $f: X \rightarrow \text{Spec } A$  で、generic fiber が  $X$  であるものが存在する。 $h^{i,j} = \dim_K H^j(X, \Omega_X^i)$   
 $h^n = \dim_K H_{DR}^n(X/K)$  とおく。最初から  $X$  は connected で次元が  $d$  であるとしておいてよい。必要なら  $A$  を局所化して、 $R^i f_* \Omega_{X/A}^i$ ,  $R^n f_* \Omega_{X/A}^i$  は locally free で rank が  $h^{i,j}$  であるとしてよい。( $\therefore$  base change と可換.)

$\text{Spec}(A \otimes \mathbb{Q})$  の  $\overset{129}{\text{closed point}}$  の  $\text{Spec } A$  における scheme theoretic image を  $T$  とし、 $T$  の closed point  $s$  で  $k = k(s)$  の標数が  $p$  で  $p \geq d$  となるようなものをとる。 $\mathcal{O}_s$  を  $T$  における  $s$  の local ring とし  $\mathfrak{m}_s$  の極大イデアルを  $\mathfrak{m}_s$  とする。 $X_s = X \otimes_A (\mathcal{O}_s / \mathfrak{m}_s^2)$  は  $X_s = X \otimes_A k(s)$  の lifting で  $\mathcal{O}_s / \mathfrak{m}_s^2 = W_2(k)$ 。 $\dim_k H^j(X_s, \Omega_{X_s}^i) = h^{i,j}$   
 $\dim_k H_{DR}^m(X_s / k(s)) = h^m$  で、 $d \leq p$  だから系 2 より

$$\sum_{i+j=n} h^{i,j} = h^n$$

証明終。

次に、小平の *vanishing theorem* を正標数の場合に拡張する。次の系は Raynaud による。

系 5.  $X$  は  $k$  上 *smooth, projective, of pure dimension*  $d$  とし、 $W_2(k) \wedge$  *liftable* とする。  $L$  は  $X$  上の *invertible sheaf* で次の (i) (ii) のうちの一つを満たすとする。

(i)  $L$  は *ample* .

(ii)  $d=2$  で  $L$  は *numerically positive* (すなわち、 $L \cdot L > 0$  で、任意の *effective divisor*  $D$  に対して  $L \cdot D \geq 0$ ) .

この時、次が成り立つ。

$$(5.1) \quad H^j(X, \Omega^i \otimes L) = 0 \quad \text{for } i+j > \sup(d, 2d-P),$$

$$(5.2) \quad H^j(X, \Omega^i \otimes L^{-1}) = 0 \quad \text{for } i+j < \inf(d, P).$$

( (5.1) と (5.2) は *Serre duality* により同値。 )

系 5 の証明のために次の補題を示す。

補題.  $X$  を *smooth  $k$ -scheme*,  $M$  を  $X$  上の *invertible sheaf*,  $h$  を *整数* とする。  $\tau_{<h} F_+ \Omega_X^i$  は  $D(X')$  において微分が 0 であるような *complex* と同型で、  $i+j < h$  に対して  $H^j(X, \Omega_X^i \otimes M^{\otimes P}) = 0$  と仮定する。この時、  $i+j < h$  に対して、  $H^j(X, \Omega_X^i \otimes M) = 0$  が成り立つ。

補題の証明)  $M' = M \otimes_{\mathcal{O}_X} \mathcal{O}_{X'}$  とおく.  $F^* M' \cong F_x^* M \cong M^{\otimes P}$  に注意する.

$$\begin{aligned} H^j(X, \Omega_X^i \otimes M^{\otimes P}) &\cong H^j(X', F_* (\Omega_X^i \otimes M^{\otimes P})) \\ &\cong H^j(X', F_* \Omega_X^i \otimes M'). \end{aligned}$$

hypercohomology の spectral sequence

$$E_1^{i,j} = H^j(X', F_* \Omega_X^i \otimes M') \Rightarrow E_\infty^{i+j} = \mathbb{H}^{i+j}(X', F_* \Omega_X^i \otimes M')$$

において、仮定から、 $E_1^{i,j}$  は  $i+j < l$  のとき 0 であるから  $n < l$  に対して  $E_\infty^n = \mathbb{H}^n(X', M' \otimes F_* \Omega_X^i) = 0$ . また  $n < l$  の時、

$$\begin{aligned} H^n(X', M' \otimes F_* \Omega_X^i) &\cong \mathbb{H}^n(X', M' \otimes \tau_{<l} F_* \Omega_X^i) \\ &\cong \bigoplus_{i+j=n} H^j(X', M' \otimes \Omega_{X'}^i) \\ &\cong \bigoplus_{i+j=n} H^j(X, M \otimes \Omega_X^i) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}/l. \end{aligned}$$

従って、 $i+j < l$  に対し、 $H^j(X, M \otimes \Omega_X^i) = 0$ .

証明終.

系 5 の証明)  $l \leq P$  の時、 $\tau_{<l} F_* \Omega_X^i$  は  $D(X')$  において微分が 0 であるような  $\mathbb{Z}$ -complex に同型である. (i) が成り立つ時  $j < d$  ならば十分大きな  $N$  に対して  $H^j(X, \Omega_X^i \otimes L^{\otimes(N)}) = 0$  である. 特に  $N = P^n$  とすれば補題より  $H^j(X, \Omega_X^i \otimes L^{-1}) = 0$ . よって (5.2) が成り立つ. (ii) を仮定した時は、 $i+j < 2$  に対して  $N$  を十分大きくとれば  $H^j(X, \Omega_X^i \otimes L^{\otimes(N)}) = 0$  となることを示せばよい.  $j=i=0$  のときは明らか.  $j=1, i=0$  の時

は Szapiro の結果から ([6], prop. 2).  $j=0, i=1$  の時は,

$$H^0(X, \Omega_X^1 \otimes L^{\otimes N}) \neq 0 \text{ とすると, } H^0(L^{\otimes N}) \subseteq H^0(\Omega_X^1). \text{ しかして,}$$

$$H^2(L^{\otimes N}) \cong H^0(\Omega_X^2 \otimes L^{\otimes N}) = 0 \quad (\because \neq 0 \Rightarrow (\Omega_X^2 \otimes L^{\otimes N}) \cdot L \cong 0,$$

$\therefore \Omega_X^2 \cdot L \cong N(L \cdot L), \quad L \cdot L > 0$  だが  $N \gg 0$  とすると矛盾.)

よって,  $N \rightarrow \infty$  の時  $H^0(L^{\otimes N})$  の次元  $\rightarrow \infty$ . これは不可能である。 証明終.

標数 0 の場合の vanishing theorem も, 系 5 から (系 4 と全く同様にして) 証明される。

系 6. (Kodaira-Akizuki-Nakano, Ramanujan)  $K$  を標数 0 の体,  $X$  を次元  $d$  (pure dim), smooth projective  $K$ -scheme で,  $L$  を invertible sheaf とする。  $L$  は ample であるか又は,  $d=2$  で  $L$  は numerically positive とする。この時,

$$H^i(X, \Omega^j \otimes L) = 0 \quad \text{for } i+j > 0$$

$$(\Leftrightarrow H^j(X, \Omega^i \otimes L^{-1}) = 0 \quad \text{for } i+j < d).$$

系 7. 系 5 の仮定のもとで,  $\pm 5$  に  $D$   $X$  smooth divisor とする。  $D$  は ample で  $\omega_D(k)$  は liftable とする。この時, 制限写像  $H_{DR}^n(X/k) \rightarrow H_{DR}^n(D/k)$  は  $n < \inf(p, d) - 1$  に対して同型,  $n = \inf(p, d) - 1$  に対して単射である。

証明)  $\Omega_X \rightarrow \Omega_D$  の kernel  $\Omega_X(\log D)(-D)$  に対し次の exact sequence が存在する。(cf. [1] §4)

$$0 \rightarrow \Omega_X(-D) \rightarrow \Omega_X(\log D)(-D) \rightarrow \Omega_D^1(-D) \rightarrow 0$$

系 5.8  $(X, \mathcal{O}_X(D)), (D, \mathcal{O}_D(D))$  に適用すれば、 $n < \inf(p, d)$  に対し  $H^n(X, \Omega_X(-D)) = H^{n-1}(D, \Omega_D^1(-D)) = 0$ .

$\therefore H^n(X, \Omega_X(\log D)(-D)) = 0$  for  $n < \inf(p, d)$ .

証明終。

### 参考文献

[1] P. Deligne and L. Illusie : Relèvements modulo  $p^2$  et décomposition du complexe de de Rham, Invent. math. 89, 247-270 (1987).

[2] N. Katz : Nilpotent Connections and the Monodromy Theorem. Publ. Math. Inst. Hautes. Etud. Sci. 39, 175-232 (1970).

[3] P. Cartier : Une nouvelle opération sur les formes différentielles. C.R. Acad. Sci, Paris, 244, 426-428 (1957).

[4] L. Illusie : Réduction semi-stable et dégénérescence de suites spectrales de Hodge, preprint.

[5] I. Bauer and S. Kosarew : On the Hodge spectral sequence for some classes of non-complete algebraic manifolds, Math. Ann. 284, 577-593 (1989).

[6] R. Ménégaux : Un théorème d'annulation en caractéristique

positive, *Astérisque* 86, 35-43 (1981).

注) さらに進んだ結果については、[1] §3.4, [4], [5]  
を参照して下さい。